

「子から父へ（親へ）」

～キリストの御丈に～

創世記17：1～9

ある芸能人に会いました。彼は貫録もオーラもない役ばかりを演じる名脇役です。しかし実際の彼は違いました。オーラとはなんでしょう。

■ 子から親へ

「わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。あなたの名は、もうアブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。」(創世記 17:4～5) アブラムがアブラハムと変わった場面です。‘ラハム’の語源は多くの国民の父。神様は「あなたの子孫をおびたしくふやし…」「あなたにひとりの男の子を与えよう。」と約束されましたが、アブラハムはその時 99 歳、妻のサラは 89 歳でした。アブラハムはその時「笑った」と書いてあります。アブラハムにとって願いはかなわないともう諦めていたこと。まだ心が子どものアブラハムに神様が命じたのは「あなたの父と母から離れよ」ということでした。これは実際の両親のことだけではありません。私達が執着しているもの、依存しているものから離れるということです。

■ 映画『ノーマン』より

マイク・ロドリゲスはゴスペルシンガーとしてプロを目指しました。技術はあるのに、なかなか認められず、諦めて炭鉱夫となりました。そして、向かいに住む、人生を諦めた老人、ノーマンに出会いました。ノーマンに関わる機会を与えられた彼は、ノーマンを愛そうと思いました。食事を届けたり、お世話をしても、お礼も言わないノーマン。しかし、関わることで、だんだんロドリゲスは変わってきました。二人は仲良くなっていき、その関係で、ノーマンも少しずつ変わっていききました。ある日、二人で歌を歌っている時にスカウトマンが通り、彼はゴスペルシンガーとして認められることになりました。技術もあったのに誰にも伝わらなかったよさは、彼の内面が変えられたことで、本当に輝くものになりました。ゴスペル福音一がロドリゲスの姿に重ねられて、人々に届くようになりました。

■ ある牧師家族のお話

夫妻には3人の子がいました。一番目の女の子はとてもいい子で、教会の中で大きくなりましたが、中学生になった時に、信じられなくなり、道を外し、家に帰らないようになってしまいました。朝まで帰らないこともありましたが、牧師夫妻は彼女の部屋で祈ることになりました。18 歳のある日、神様が彼女に両親が祈り続けてくれた温かい思いを伝えてくれて、彼女は戻る事ができました。そして、成長して、牧師の妻となり、教会で同じように痛みを抱える子ども達の心に寄り添う人になりました。いつまでも、子どものままで願ったことが与えられることが愛されることではありません。愛されて、与えられる期間も必要、それは次の人に愛を流すため。多く愛された人は、多く愛するようになります。希望を持ち、夢を果たすために教会はあります。誰かが何かを望む時、応援し、励まし、また、誰かが悲しむ時は祈り、慰める。人はそうして愛されていることを知ります。私達は親が子を想う目線で、神様が私達を見つめる目線で、すべての人を見れるようになりたいと願っています。

ます。「主はその御目をもって、あまねく全地を見渡して、その心ご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてください。」(II歴代誌 16:9) 特別な人に求められるものでも、親にだけ与えられるものでもなく、聖書は「受くるより与える者は幸いです。」と教えてくれています。

■ 人生は変えられた

教会にきて、受ける恵みがよくわかるようになりました。「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」(ヨハネ 15:5) イエス様が身代わりとなって私達を守ってくれたので、その木につながっている枝のように私たちは恵みを受け、誰かのために実をならせる人生です。恵みを受け続けて流すことのない死海のようになってはいけません。最も低い地にあるが故に、豊かな水を受け続けても流すことのできない死海は、ミネラルも養分も飽和状態となり、生き物を生かすことのできない死んだ海となりました。私達は受けるだけになってはいけません。

■ どうやって?

必要なのは親になる決意だけです。自分のために生きる人生は豊かな実を結ぶことはありません。誰かのために生きるようになると自分を変えられるのです。自分のものだと思っているものはすべて自分の力によって労苦によって得たものか思い出してみましよう。家にあるものも、財産もわが子も自分が作り出したものでしょうか。「神の国のために、家、妻、兄弟、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、この世にあってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者はありません。」(ルカ 18:29) これは聖書の法則です。私達が受けるのは、すべてその受けたものを多くの人に流すためです。母鳥が餌を得て、すべてを子に与えるように、誰かのために、まず私達が受けて、私達自身が輝くこと、それがオーラと言われるものなのでしょう。「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む」(イザヤ 60:1～3)

最後に

私達は、父のように威厳があり、母のように人々に平安を与える、そんな姿でいたいと願います。自らを得ようとするものはそれを失い、自らを捨てるものはそれを得る、聖書の法則を信じてどんな時もいつも変わらない姿でいられるように祈ります。

(要約者:藤原 友規子)

(11月26日)